令和８年度　埼玉県高Ｐ連西部地区役員等研修会

第１部　アロハ太朗 氏 講演「ラジオパーソナリティから見た学校」覚え書き

アロハが正装

今日はアロハ太朗として呼ばれているので、正装で来た。アロハシャツ。ラジオ番組が 10 周年。(拍手) 全然有名じゃない。今日は、聞いてくれている人が来ているかもしれないが。この会場広すぎません？２階席に誰もいない。もっと小さいところでよかったのでは？有名じゃないけど、今日、始まる前に立ち寄ったドラッグストアで、店員二人から珍しく「アロハ太朗さんですよね」と言われた。「よくわかりましたね」と言ったら、「だって、アロハ着てますから」。ありがたいこと。

ＰＴＡ会長歴２年

ＰＴＡ会長を２年経験した。１５年前に小学校で。まだラジオ番組をやる前のこと。肩書は漫画家だった。前任者は一級建築士。自営業に話が行くようだ。一軒家を買ったばかりの時に次期会長を打診されて、「土地勘もないので無理」と言ったのだが、「平日ヒマでしょ」と言われた。氏素性が知られていた。当時は男性の役員はほとんどおらず、「せめて会長は男性に」という話で、平日に都合がつく男性に白羽の矢が立った。校長からは「年３回、入学式、卒業式、運動会だけ来てくれればいい」と言われたが、とんでもない。月３回出ていた。役員会が月１回。その準備が１回。どう準備するかで１回。後任会長からは、土日開催きるように、と変わってきている。転換期にある。何をもって転換期か、わからないが。

「感じる力」と「伝える力」

「スローガンを決める。会長のご意見は？」と問われた。「いらないんじゃないですか。他のことやりましょうよ」と言ったらシラーっとした空気が流れた。「毎年決めてるんだから、決めてもらわないと」と言うので「感じる力、伝える力」とした。格好よくいうと表現者としての仕事をしてる。伝える力がなければいけない。そのためには感じる力がなければいけない。自分の中に「感じる力」と「伝える力」がともにあることで芸術家としての仕事が成り立つ。ＰＴＡにも通じると思う。スローガンは、ＰＴＡが活動する部屋に１年間貼ってあった。

運動会で「ん？」

「何をすればいいんですか」と聞いたら、「いてもらえればいい」と言われた。運動会に行ったら「お客さん」扱いだった。ＰＴＡがお茶を出してくれる。議員が来ていい席に座っている。あれは親御さんに譲るべき。いつも一緒にいる副会長がお茶を出していて、「何であんたがお茶汲みして私が飲んでるんだ。おかしいよ」と言ったら、校長から「まあ、まあ…」と言われた。わりと「まあ、まあ」で来ている。

ＰＴＡは必要か？

先ほど転換期と言った。ラジオでもＰＴＡという言葉が多く出てくるようになった。「ＰＴ

Ａは必要か？」という議論。前任者から「そもそもＰＴＡは任意ですから」と言われた。１５年前からその話はあった。皆さんは、いかがか？ＰＴＡって必要か？身も蓋もない話だが、この会だって必要か？今日だって役員さんが、あんなガチガチになって一生懸命やっている。校長先生がうまいこと柔らかくしてくれたようだ。校長先生は良くも悪くも緩衝材のようなところがある。ＰＴＡでも担任の先生は出てこない。「あの先生が問題だ」となっているところに校長が出てきて、何となく柔らかくしてくれる。先生が休職して戻ってこない。そういう部分を校長先生は対応していかなければならない。ＰＴＡで学校の中に入ると、そういうところも見えてくる。

削いでいくこと

ＰＴＡが立派だと表彰される。何をもって立派なのか？一生懸命が立派なのか？みんなが一生懸命やれるわけではない。それぞれ事情がある。削いでいくことを考えるべき。子供の相手をする時間が無くなるなら削いだ方がいい。高校はまた違うかもしれない。子供がもう少し成長しているから。

安倍内閣以来、働き方改革と言われる。働き過ぎないようにする流れ。部活動も、公立はこの日はやらない、でも私立はやる、と二極化していく。教員の中でやりたい人も、出過ぎないように抑える部分もあるかもしれない。

昔のドラマに出てくるＰＴＡには男性がたくさんいた。八百屋のエプロンをつけたおやじとか。今のＰＴＡは大分違う。報酬を出すのも一つの考えだ。国なのか自治体なのかわからないが、やらなければいけないことをやるのであれば、報酬を出すべきではないか。

三位一体

今日はラジオ風にやることになっている。リスナーには警察官と教員が多い。警察官が聞いてるとなると車の運転には気を付けなくてはいけない。アロハ着て運転しているので。ラジオ投書風のアンケートに「ＰＴＡ活動をどうアピールすべきか」というのが多くあった。別にアピールしなくていいと思う。一方、「あしながおじさん」でなくていいとも思う。廃品回収に関わる活動で資金を得て、図書館の本を買った時に、「このことを子供に知らせなくていいのかな」と思った。「あなたたちのために、お父さんお母さんたちはこんなことをしたんだよ。そのお金で本を買った。この本を買うのにこういうことをしたんだよ」というのを子供にアピールすべきだと思う。先生・親・子供は、教会みたいな言い方になるが、「三位一体」の関係だと思う。

先生が病んでいる

それを中心になってやる先生が病んでいる。是枝裕和監督の「怪物」という作品をご存じだろうか。学校が舞台。モンスターペアレントがいて、素行の悪い先生がいて、いじめてるのかいじめられてるのかわからない子供がいて、問題が起こる。その事象をいちいち子供の視点に戻して、子供の目から見た学校、子供の目から見た親、先生…というふうに描く。舞台袖でうちのカミさんがこうやってる。（腕時計を指さす仕草）まずはここまで。問題提起ということで。今提起したようなことをこの後、第２部で話していきましょう。「肩の力を抜いて」と言っていた人が一番肩に力が入っていたけど、これで少し柔らかくなったかな？引き続き、第二部を、参加意識をもってお聞きください。

第２部　ラジオ風☆smile & sad 子育て・ＰＴＡエピソード
～アロハ太朗さんと一緒に語り合おう～より　アロハ太朗さんトーク部分の覚え書き

子供を見守る体験

中学校不登校とか、不安定な時期もあった。新築２、３年の家の壁に息子が穴を空けたことがあった。そこに額縁を飾ってやった。いつ、だれが空けた穴だと表示してやった。
頭突きをされたことがある。猛烈に痛かった。腹いせに、目の前で酒を飲んでやった。目のところがみるみる腫れあがった。「どうだ、お前のせいでお父さんこんなになったぞ」と、言葉には出さず見せつけてやった。普段、親の顔など見ない息子がその時は二度見した。さすがにまずいことをしたと思ったようだった。
今、２８歳でテニスのコーチをしている。結構強いらしい。何とかなるもんだ。

なぜ、今の職業に？

学校の成績は良くなかった。体育で１を取ったことがある。体育で目立つことはできなかった。小学校で、先生の似顔絵を描いたらウケた。これが絵描きのはじまり。中学校では入ってくる先生の似顔絵を次々に描いた。黒板一杯に似顔絵を描いて怒られて、反省文にまた似顔絵を描くような子だった。絵を描くことがきっかけで、さいたま市立漫画会館に関わった。北沢楽天という、手塚治虫が幼少期に読んでいたとされる漫画家の資料館。自分が観光大使になって、地元のケーブルテレビに出るようになり、NACK5 のお偉いさんの目に留まった。自分はあまり前向きではないが、好きなことをやってたのは確か。ラジオパーソナリティと絵描きは全然違う仕事だが、頭の中にあるものを表現するという点では同じことをやっていると思う。喜怒哀楽を感じて伝える仕事だ。子供相手の講演では、伝えること、コミュニケーションを大事にするといいよ、と言っている。「犬も歩けば棒に当たる」というが、当たる局面は必ずある。その棒をどけるか、よけるか、子供が考える。そう持っていくのが周りの親だったり、大人だったりの役割だ。

モチベーションの保ち方

子供には、どこに行っても、何をやってもよいと言う。ただし、公序良俗に反しない範囲での話。自分はどのジャンルでも、喜怒哀楽で仕事をしている。居合のような気持ち。あと５分、あと１０秒、の中でやっている。大体失敗する。ワ―ワーワーで終わる。それでよいと思っている。

なぜ、アロハ？

ラジオのピンチヒッターをやったらウケた。NACK5 の社長に夫婦で招かれて食事をした。何が欲しいかと聞かれて、カミさんが「ハワイに行きたい」と言った。「なら、行って来い」という話になって、夫婦二人分は出してもらって、家族全員で行った。初めての家族そろっての海外旅行。普段とは違い、ずっと一緒に行動して、部屋も一緒。一体感が出た。「本当にありがとうございました」という感じ。それから、ラジオパーソナリティとしての名前を付けることになって、「あらい太朗」から、「ハワイ太朗」、いやいやダサい。「アロハ太朗」で、となった。まるで「太陽にほえろ！」で裕次郎が「今日からお前はテキサスだ」と言うみたいに、社長の鶴の一声で、「お前はアロハだ！」となった。